

第3学年

話すこと・聞くこと

相手や場に応じて話し方を考えて話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くこと

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。



全国学力・学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力の育成をめざした授業の構築」が課題であるとされ、主体的・対話的で深い学びになるための授業の構築を図る必要がある。ICTの活用等を推進し、言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図ることが大きな課題となっている。

実践の概要

単元名

言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう

『初恋』 光村図書

目標 島崎藤村の「初恋」を朗読し、藤村の恋人への想いを恋文にし、交流し合う。

- 内容
- ・藤村の恋人への想いを考える。
 - ・昭和初期の時代に合った言葉を書き出す。
 - ・恋文をつくり、グループで交流する。
 - ・自分の発表する姿を動画で確認し、振り返る。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。 ・相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- ・自分たちを動画で確認し、その場で何度も振り返りをする中で、抑揚や目線、身ぶりなどを工夫してより伝わるように話し方を変えることができるようになる。
- ・繰り返すことで、自分たちで言葉の根拠や意味を深く考えるなど、話し方・聞き方を工夫するようになる。



つまずき解消に向けた指導の工夫

説明している様子や話し合いの様子を動画撮影し、動画を見ながら振り返りを行う活動を取り入れる。

活動のねらい▶ • 内容や話し方について、その場で振り返り、考えることで、自身の発表内容や話し方にいかすことができ、相手への聞き方も深めることができる。

ここがポイント

- 何について振り返るのか、視点を明確にしておく。
- タブレット等で撮影したり確認したりすることを日常的に行い、自分の姿を客観的に見直すことに慣れさせる。

動画を用いた振り返り



この考え方は自分にはなかったなあ。原稿を読まずに、聞き手を考えた間を取ればもっとわかりやすいのに…。

自分の姿を客観的に見ると、自分の考えを一方向的に話して、相手がどう感じるかを意識できていないなあ。

(期待される生徒の姿)
 タブレットの動画機能を使うことで、黒板に読んでいる姿が提示されるので、発表者も聞く側も同時に映像で確認ができる。また、すぐに再生でき、拡大もできるため、発表内容や話し方等振り返らせた内容を焦点化させて、改善方法を話し合うことができる。

ここがポイント

自分の意見を改善する際にも、もう一度動画が見たい場合があれば、確認させる。必要に応じて、動画を見ながら全体で修正箇所について話し合う活動を取り入れる。

振り返りを通じた改善



巻き戻して確認できたから、友達がいいなと思った表現を自分の発表にもいかすことができるぞ。

(期待される生徒の姿)
 ワークシートに自分とグループの感じたところを書いていく。交流後にすぐに振り返りが動画のできるの、修正箇所を分析し、自分の意見に反映することができる。

第3学年

書くこと①

社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
(それぞれの意見を具体的に評価し、自分の考えに取り入れることができない)



A 「美とは、民族や地域や文化によって異なるものだ。」



どちらの考えもすごいなあ……。

B 「美とは、人間にとって共通のものである。」



2つの考えを比較するときのポイントは何だろうか？

実践の概要

単元名

2つの異なる考え方の文章を比較しよう

「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」東京書籍

目標 異なる意見の文章を読み比べて、自分の考えをもつ。

内容 ・「美・美しさ」について述べられた文章を読み、理解を深めて自分の考えをもつ。
・同じテーマで異なる意見の文章を読み、自分の考えを修正する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- ・要点をおさえながら、複数の文章を比較して読むことができるようになる。
- ・複数の異なる考えを踏まえながら、自分の意見を書くことが意識できるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

文章の中でポイントとなる部分や、キーワードを探させる。

活動のねらい▶ 筆者の考えの違いがわかる箇所を明確にし、そこから自分の考えをもてるようにする。

ここがポイント

- 筆者の主張が何かを推測し、それをもとにキーワードや主張が表れている箇所を考える。
 - 各自で何が書いてあったかを短文でまとめ、それについての考えを書かせる。
- ※様子を見て、何人かの生徒の文章を紹介し、書きにくい生徒の手がかりとする。

1つ目の文章を読み、
自分の考えと比較する



Aの筆者の主張のポイントは、「美しさ」は文化によって異なるものだ、ということだな……。ということは、Bの文章も「美しさ」という観点で考えてみるといいな。

(期待される生徒の姿)

主張が表れている部分やキーワードを確かめながら文章を読み、筆者の主張についての自分の考えを書くことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

2回に分けて文章を読み、考えを書かせることで、比較を意識させる。

活動のねらい▶ 筆者の主張に対する自分の考えを客観的に見直し、考えを深めることができる。

ここがポイント

- はじめの文章について自分の考えをもたせてから、異なる見方の文章を提示することで、新たな発見がしやすくなる。
- 上の事例で出されたキーワードをもとに、2つ目の文章を読む前後の自分の考えを比較させることで、視点が明確になる。

2つ目の文章を読んで、考えを追加・修正する



AとBを比較して、「美しさ」に対する2つの考えは異なると思っていました。でも、「美しさ」の基本になる部分は同じで、そこに地域や文化が影響しているので、根本的なところは同じ考えじゃないかと思うようになりました。

(期待される生徒の姿)

共通点や相違点をおさえながら2つ目の文章を読み、初めに書いた自分の考えと見比べ、意見を追加・修正することができる。

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。

■「小見出しの効果」について、肯定的又は否定的な意見を書く 「月の起源を探る」(光村図書3年)

「月を作る」という言葉が聞き慣れないので、面白いなと考えました。どうしたら月を作ることができるかなどの疑問が自然と出てきます。その後の「実験」という言葉も、実験なんて実際にできるのかと驚きました。たったこれだけの言葉で、疑問と驚きが出てきたので、個人的にとっても良い見出しだなと考えました。言葉の選び方がとても面白いです。(生徒作文)

考えを書き連ねることはできるが、接続語や段落構成が意識できていないので、論理の展開がつかみにくい文章になっている。

実践の概要

教材名 「慣用句・ことわざ・故事成語」

光村図書

目標 ことわざと体験を結び付けて、2段落構成の作文を書く(200字作文)。

- 内容
- ・ことわざとそれに込められた教訓について学習する。
 - ・選んだことわざに合う体験・エピソードを考える。
 - ・下書き→推敲→交流→清書する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第3学年	慣用句・ことわざ・故事成語	論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。
第2学年	論理をとらえて	筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する(否定的な)文章を書くことができない。
第1学年	いにしえの心にふれる	根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

単元末の目指す姿

- ・段落の内容を整理して、筋道の通った2段落作文を書くことができる。
- ・文章を客観的に推敲したり、評価したりできるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

体験をはじめに書くAパターンと、体験後に書くBパターンを提示し、モデル作文をもとにどちらが効果的かを検討させる。

活動のねらい▶ 体験とことわざをどう関連させるかが鍵であることに気付かせる。

ワークシート

ここがポイント

- まずは、A・Bどちらのパターンで書く方が説得力のある文章になるか、自分の考えを書かせる。(左:ワークシート)
- その後、Aパターン、Bパターンそれぞれのモデル作文(右)を読ませ、文章の流れや構成を検討させる。これにより、論理的な展開・構成をより意識するようになる。

※Aパターン、Bパターンどちらが良かったか。

①具体的な体験・学んだこと。

②ことわざやその意味。

③具体的な体験・学んだこと。

④ことわざやその意味。

選んだパターン()

●理由

図表① Aパターンの作文

う	し	っ	さ		ず	を	当	し	秋
い	た	て	が	「	出	た	の	祭	
こ	。物	事	あ	船	さ	る	組	り	
ど	。会	社	る	頭	れ	大	み	の	
も	に	社	が	多	の	人	立	準	
團	長	長	ま	く	で	が	て	備	
係	が	ま	く	指	、	多	に	の	
し	が	運	ば	な	ど	お	撃	日	
て	復	な	い	と	時	ら	出	、	
い	存	い	と	い	間	動	さ	僕	
る	在	い	と	い	が	け	れ	た	
か	し	な	い	こ	か	ば	。だ	ち	
も	な	い	こ	と	か	良	が、	中	
し	い	は	を	、	か	い	し	学	
れ	な	い	を	実	え	の	な	生	
な	い	は	を	感	わ	か	る	は	
い	。そ	。				ま	指	、	
。						っ	導	み	
						た	に	こ	

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

下書きの後、推敲が必要な箇所に付箋を貼り、気付いたことを記入しながら、班で交流させる。

活動のねらい▶ 下書き原稿を交流・推敲することにより、よりよい文章を書こうという意欲が喚起される。

ここがポイント

よい文章を書くためには、推敲が欠かせない。だが、自分で自分の文章を読み返すだけでは、どこが問題なのかがわかりにくい。そこで、付箋を用いて相互に評価し合う場を設定する。これにより、友達の良い点をまねたり、自分の文章の改善点を見つけたりできる。その際、「論理的な展開・構成になっているか」など、本単元のねらいに沿った視点を確認しておくことが大切である。

付箋を用いた交流



体験を後で説明にした方が説得力があるよ。

(期待される生徒の姿)

班活動を取り入れ、良い点や改善点を話し合わせることにより、良い文章を書こうという意識が高まる。また、構成の仕方によって説得力に差ができることを実感できる。

また、書き出し→結び→下書き→清書と段階を追って書き進めることで、書くことへの苦手意識が軽減される。

読むこと①

第3学年

論理の展開の仕方を意図的に読み取り、内容の理解に役立てよう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。

最後の行に「開発」とあるので、「開発」という観点でとらえているんじゃないかな？



4	3	2	1
生物の卵や種の仕組みを、人間が行う包装という観点でとらえている。(67.9%)	生物の卵や種の包み方の違いを、人間の呼吸という観点でとらえている。(5.8%)	生物の卵や種の栄養を、商品の品質という観点でとらえている。(9.8%)	生物の卵や種の成長を、開発の仕組みという観点でとらえている。(16.0%)

自然界には優れた「包装」がたくさんあります。
(中略)
商品の包装には、中身の品質を守る役割とともに、様々な優れた機能を持たせようという工夫がなされています。品質の保護性と同時に、使いやすい簡便性や美しいデザインの快適性などがこれに相当します。生物が持っている様々な優れた機能は、新しい包装の手法になるものが含まれており、これらを参考に優れた新しい機能を持った包材が開発できるかもしれません。

平成二十八年度
全国学力・学習状況調査国語A⑥
この文章について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

実践の概要

単元名 学びの扉をひらく

『問の文化』三省堂

目標 文章の構成や展開をとらえ、内容の理解ができるようにする。

- 内容
- ・「本論」の例示だけを提示し、例示から「結論」を推測する。
 - ・「本論」→「結論」の展開を考え、仮説を個人で立て発表する。
 - ・筆者の論理の展開とグループの仮説を比較検討する。
 - ・学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- ・「本論」から「結論」の展開を考え仮説を立て、発表することで、自分と友達のことを比較し内容の理解が深まるようになる。
- ・筆者の論理の展開を模倣することで、論理の展開を意図的に読み取れるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

「本論」の例示のみを提示し、そこから「結論」の内容を推測し、仮説を立て発表させる。

活動のねらい▶ 友達の仮説と比べることで、整合性のとれた展開を考える力を身に付ける。

ここが
ポイント

2年時に学習した例示の配列の方法を想起させ、「本論」から「結論」の内容を推測させる。「結論」は多種多様に出てくるが、「序論」との整合性も考えなければならず、論理の展開を意識して「結論」を考える姿勢を身に付けていくことにつながる。

結論を推測する

日本文化と西洋文化を比較して見えてきたことが、結論になるんじゃないかな。



空間的な間、時間的な間、心理的な間について比較して、共通することが結論につながっているということか。

(期待される生徒の姿)

「序論」－「本論」と整合性がある「結論」になっているかを意識的に考え友達の発表を聞くことで、論理の展開を考える力が身に付く。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

筆者の論理の展開を模倣し生活作文を書かせる。

活動のねらい▶ 筆者の論理の展開を模倣することにより、筆者のものの見方やとらえ方の追体験をする。

ここが
ポイント

- 「本論」から「結論」の展開を意識して書くことで、文章が論理的にわかりやすくなることを理解する。
- 良い作品を全体で交流することにより、さらに論理の展開の意図を読み取ろうとする態度が身に付く。

生活作文

結論は「貢献」ね

文武両道という
まとめ方か？

貴校で充実した三年間を過ごしたいと思っている。どのような三年間にしたいか具体的にいうと大きく分けて二つある。

まずは、本物に触れる機会に積極的にチャレンジし、自分自身の視野を広げていきたい。JAXAの阪本さんの講義に特に興味がある。日本を支えている人の価値観や考え方にふれて、私自身も将来貢献できる志をもちたい。また、そんな活動してみたい。

次に、野球部の厳しい練習の中で、多くの仲間と共に毎日精一杯汗を流し、上位を目指していきたい。中学校に来ていただいたり、オープンスクールで感じた先輩方の礼儀正しくはつらつとした姿はまさに私の理想の姿だった。そんな先輩やこれから出会う仲間と互いに磨き合い戦績だけでなく人間としても向上していきたい。

このように、高いレベルでの文武両道を行うことで、充実した三年間に行うことができるはずである。

そして将来は貴校に貢献できるような人間になっていきたいと考えている。

(期待される生徒の姿) ものの見方や考え方を伝えるために、論理の展開にどのような意図があるのかを、読み取れるようになる。

登場人物の行動描写から心情を的確にとらえること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。

〈H27 ひょうごつまずき状況調査結果から見えたつまずき〉

- ①「あなたは、国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を整理しながら読んでいますか。」
「どちらかといえばそうしていない・そうしていない」の割合
(1年：27.0% 2年：28.5% 3年：30.5%)
- ②「あなたは、国語の授業で書いた文章を友達と読み合ったり、助言し合ったりする学習をしていますか。」
「どちらかといえばそうしている・そうしている」の割合 (小学校：53.8% 中学校：35.0%)
- ③「あなたは、国語のどんな勉強が好きですか。」
「グループなどで、話し合い活動を行う時間」…44.5%



- ・学年が上がるにつれ、文章も長く難解になり、読むことへの抵抗感が強くなる傾向がある。
- ・話し合い学習に興味をもつ生徒が多いが、考えを深め合う話し合いには至っていない。

実践の概要

単元名

関係を解く

『故郷』 東京書籍

目標 3つの課題について考え、話し合うことで、「魯迅」が伝えようとしたことをつかむ。

内容 ・3つの課題について分担を決め、各自で取り組む。

- ・異なる課題の者同士で班を作り、意見交流する。
- ・同じ課題の班に戻り、学習成果を交流し、自分たちの結論を出す。
- ・クラス全体で、互いの班の考えを発表させる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容 (単元名)		つまずきの実態
第3学年	関係を解く	登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。
第2学年	描写を味わう	場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えることができない。
第1学年	作品を読み解く	登場人物の行動描写から心情を的確にとらえることができない。

単元末の目指す姿

- ・グループの代表として意見を述べるために、さらに深く読み取ろうとし、場面や登場人物の描写に根拠を求めようとする。
- ・複数の課題に対する考えを比較することを通して、登場人物の設定や心情・情景の描写をもとに主題を考えることができる。

異なる課題の者が集まった班で交流して深まったことを、同じ課題の班で伝え合う活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 異なる課題に対する考えを比較することで、様々な観点から作品の主題について考えられるようにする。

【活動の流れ】

- ①3つの課題を示し、分担を決める。
- ②分担した課題について、個人で考えをまとめる。
- ③同じ課題の班で、考えを交流する。
- ④異なる課題の者で班を作り、それぞれの課題についての考えを交流する。
- ⑤同じ考えの班に戻り、異なる班の考えと、それに対して自分が考えたことを交流する。

ここがポイント

- 異なる課題に対する考えを比較し、共通点を考えさせる。
- 作品の主題が何なのかを考えながら交流するように指示をする。
- 元の班に戻って説明する際には、異なる課題の班で出された意見をそのまま伝えるのではなく、共通点をまとめたり、自分の考えを付け加えたりさせる。

授業の様子

〈今回の学習で考える3つの課題〉

- A 登場人物の関係をまとめる。
- B 二つの「月」の描写を比較する。
- C 「ルントー」の望むものと「私」の望むものを比較する。



すぐに手に入るものとそうではないもの。難しいなあ。

生活の苦しさが、性格や人間関係を変えたという意見が多かったよ。

「金色の丸い月」は、きっと美しい故郷や新しい生活を象徴しているんだよ。

若い世代に新しい生活をもってほしいと思うことだと思うな。

A・B・Cの課題から見えたことは「新しい生活」だね。

【期待される生徒の姿】

- 異なる課題からアプローチすることで、作品の主題についての考えを深めることができ、対話的な学びにつながる。
- グループの代表として意見を述べるために、場面や登場人物の描写に根拠を求めようとするができる。
- 全員が自分の言葉で説明し直すことで、読み取ったことやそれに対する自分の考えを再確認することができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

語感や語彙を豊かにすること(慣用句・ことわざ)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。

適切な語句を選択する：「白羽の矢が→立つ」（兵庫県正答率 54.6% 無回答率 0.9%）

→ 約半数の生徒が、上記の慣用句を知らない実態があった。

H28年度全国学力・学習状況調査（国語A9三才）より

ことわざや慣用句という言葉は知っていても、表現や意味を理解している生徒は少ない。また、表現や意味を知っていても、自分の文章や会話の中で活用できていない。ことわざや慣用句を使っていきたいという意識はあるが、どんな場面で使えばいいかわからない様子である。

実践の概要

単元名

言葉の小窓2

『慣用句・ことわざ』教育出版

目標 慣用句やことわざに関する知識を広げ、「伝統的な言語文化」の一部としての意味を知り、普段の生活の中に活用していけるよう、語彙を豊かにすること。

内容

- ・各自担当のことわざを決め、資料集や図書室などで意味や用例を調べる。
- ・ことわざの意味を理解した上で、それを絵で表現し、短作文を作る。
- ・班で互いに絵を見せ合い、どのことわざかを推測させる。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもたず、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にいかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- ・ことわざを使うことによって、自分の思いを豊かにわかりやすく伝えることができると理解できるようになる。
- ・絵やふき出しを作ることで、ことわざを身近なものと感じられる。
- ・曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

複数の資料を使い、より理解しやすい表現を選択させる。

活動のねらい▶ 複数の資料の内容を比較・吟味し、それを用いて表現することで、理解の定着につなげることができる。

ここがポイント

- ① 便覧やことわざ辞典を使い、意味や由来を調べる。同時に同義のことわざや対義のことわざを知り、語彙を増やす。
- ② 短作文の推敲や絵の表現について、グループで意見交換する。
※必要に応じて、誤解した使われ方が多いことわざを提示し、本来の意味と「誤り」とを比較させる活動を取り入れる。

複数の資料の内容の比較



こっちの便覧の表現を使った方が、言いたいことがより伝わるんじゃないかな。

(期待される生徒の姿)

曖昧に覚えていたものや思い込みで使っていたものを正しく理解し、使えるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

絵とひと言ふき出しでことわざの意味を表現し、班で互いに推敲する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 生徒同士でアドバイスすることによって、意味を理解しにくい生徒も意欲的に取り組むことができる。

ここがポイント

- 事前に他のことわざを使った用例の見本イラストを用意しておく。
- 一目見てなんのことわざかわかるようシンプルな表現にするように指示をする。
- 短作文は主語・述語を入れることと、辞書や用例のままではなく、自分の体験や身近なことに置き換えて表現するように指示する。

授業の様子



このイラストで伝えようとしていることと、ことわざの意味や使い方は一致しているかな。

(期待される生徒の姿)

ことわざの意味を絵とひと言ふき出しで表現することによって、意味を可視化しやすくなり、ことわざの意味や整合性等、視点を明確にして推敲することができる。